

進路だより

はじめの一步

新潟県立小出特別支援学校進路指導部
NO. 105 (令和4年9月28日)



魚沼の地で...



進路指導主事 細井哲明



週末はあゆみ祭です。児童・生徒が発表に向けて日々がんばっています。そんな中、学校周辺では稲刈りも佳境に入り、景色が変わりました。魚沼産の新米コシヒカリが楽しみです。ここには自然豊かで、四季のすばらしい風景があります。そのような魚沼市は山間部を含めとても広い地域になります。その中で生活する上では、地域を知ることは大切なことです。学校からの風景のように、“当たり前”に見えていることが、他の地域から見るときに“すごいこと”ということがたくさんあります。

卒業後の定着状況の確認のため、進路先から様子や課題をお聞きしました。企業でも福祉事業所でも、卒業生の実態や課題に合わせて対応していました。卒業生が安定した生活を続けていくことが確認でき、とてもありがたいことだと思いました。また魚沼市の通所の福祉事業所では、在学中の進路選択の時に、定員の都合で受入ができないということはあまり聞きません。それらのことが「普通のことじゃないの？」と思われる方もいるかと思いますが、決してそうではありません。異なる事例はたくさん見てきました。地域での受入に対する考えや体制は、とてもすごいことだと改めて感じていました。

この夏、魚沼市ものづくり振興協議会主催の企業見学会（オープンファクトリー）が行われました。十数社見学をしましたが、それぞれの会社が独自の考えを持ち、日本や世界の産業を支える確かな技術力をもっていることがわかりました。（まるで下町ロケットの世界でした。）見学対応をしてくださった方々は、手帳をお持ちの方について「仕事が合えばすごい力を発揮するよね」と理解があり、地域企業の素晴らしさをさらに実感しました。

当たり前に見えていたことが、実は“とてつもなく、ものすごいこと”と感じる前期でした。これから後期の学習が始まります。キャリア教育としての積み上げはもちろんのこと、子どもたちには魚沼の良いところ、この地で生活をする良さを感じてもらえるように頑張りたいと思います。



高等部後期現場実習に向けて

現在高等部では、後期現場実習の準備をしています。高等部1年生では身近な福祉事業所を、2年生では進路選択へ向けた様々な事業所へのチャレンジ、3年生では希望の進路で“卒業したら社会人”の実現へ向けて頑張ります。高等部生徒の保護者の皆様には、実習に向けて気持ちや物品の準備、通勤練習、事業所への同行等をお願いをしますが、御協力のほどよろしくお願い致します。

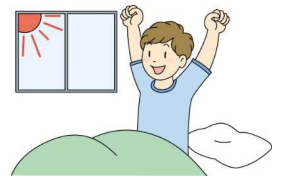
前期の実習では、1年生は校内実習を中心に、2年生は様々な事業所へのチャレンジ、3年生は進路選択の見極めを行いました。保護者の皆様、御支援ありがとうございました。取り組んだ中で皆様を感じたことをまとめましたので、御覧いただけたらと思います。是非、御家庭で感じたことを共有してみてください。



前期高等部 現場実習・校内実習アンケート のまとめ

1 今回の実習でお子さんにどんな成長が見られましたか？ 御家族が感じたことをお聞かせください。

- 現場実習、校内実習も最後まで頑張ったと思います。“一般就労する！”と目標ができ、「今後一人暮らしはどう？」と色々話す事が増えました。学校へ持って行く空き缶も自分で洗い、校内学習を通じて出来る事も増え、休日の過ごし方も少しずつ変わってきました。
- 実習はすごく頑張っていますが、家ではあまり言うことを聞かないので、家の事も頑張ってもらいたいです。
- 自分の持ち物に責任をもつようになりました。洗濯をしたり、きれいにたたんで袋に入れることができました。
- 初めての場所や物事でも、落ち着いて過ごせるようになりました。
- 人のやる事を見て、覚えるのが早くなったかなと思っています。
- 仕事のやり方手順等を理解し一生懸命頑張っていた姿や、言われなくても毎日準備をしていた姿を見て成長を感じました。
- 仕事に対する意欲が高まったように感じました。
- 緊張感を持って取り組んでいたのが、出来はともかく本気でやり遂げる姿勢は成長を感じました。
- 現場実習で緊張していたのですが、頼まれた仕事を最後までやって、指導して下さった人から褒めていただいて、本人も自信になりました。
- 企業の大切な製品を作成しているという意識をもって、作業を行っていたと思います。
- 今回の実習期間中は、朝自分で起きて、自分から車に乗って、まったく嫌がる事もなく無事に終える事ができました。改めて、大人になったなと感じました。
- 通勤時に苦手な生き物を見ても、以前ほどおびえなくなりました。毎日（朝）、前日の仕事について教えてくれました。
- 前回の実習よりも「働く体力」が付いたと思いました。帰宅してからも比較的元気に過ごしていて、前回のように疲れ果てた様子ではなく、緊張すると見られる睡眠障害もあまり出ませんでした。
- やる気が出てきた感じがあり、周りの人の動きや声も聞こえてきていて、送迎していても頑張らなければいけないという気持ちが伝わってきました。
- 家での生活は変わりませんが、家ではないそうじを、ちゃんと現場ですていたようです。
- 1週間ずつ違う作業をさせて頂きました。ずっと同じ事をするわけではないという事で、本人も戸惑いがあったようです。色々考えて行動しなくてはならないという事もあり、疲れた様子でした。
- 新しい現場でしたが、大変な所がたくさんあったと思います。ですが、上手に慣れて良かったし、現場の人達に優しくされていたし、挨拶などもきちんと出来ていて良かったです。
- 昨年より時間を伸ばしたり、新しい所に挑戦したりでしたが、無事に帰ってくる事ができました。昼食をほぼ完食する日があり、自分で安心できる場所を探しながら過ごせた様子もありました。



○初めての場所で、初日は気持ちが整わない様子もありましたが、気持ちを切り替え、リラックスできる時間もあつたと聞きました。今までならパニックで、参加できない感じでしたが、本人なりに成長しているのだと思いました。(先生の同行が安心につながりました。ありがとうございました。)

2 今回の実習を機会に、お子さんの将来の生活について改めてお考えいただいたことと思いますが、保護者が学んだことや感じたことをお聞かせください。

- 就職先にもよりますが、一人暮らしが可能なのか、一人暮らしにはどんな事を覚えさせたらよいか。就職に向けて自宅出来る事はさせていきたいですが、何をさせていいか分かりません。
- 実習で習った事を家庭でも頑張つてやってほしいです。もう少し家でもお手伝いをさせたいと思います。
- 何事にもチャレンジする所はすごいと思います。
- 本人が何をやりたいか、また何ができるのかを考える良い機会になりました。これからの実習等を通して、本人にとって何が一番良いのか、更に考えていきたいと思っています。
- 社会人になるのが目前であることを実感しました。
- “一年生の入学したばかりだから…”という軽い気持ちではいけないと思いました。日々の積み重ねを親も自覚しました。
- 車ではなく、バスに乗って生活する時間の大切さを感じました。(乗車時間・待合時間・間に合うための準備時間等)
- 就業先までの通勤方法、仕事が自分に合っているか、長く働き続けられるか等、考えなければならない点が多かったです。
- 勤務態度については見ていないので分かりませんが、担当の方の連絡を見ると、昨年よりも集中してできるようになったのかなと思います。
- 手厚い支援がある学校とは違い、卒業後の社会では色々なトラブルがあるのだと思いました。
- 新しい場所を開拓するよりも、その場所に安心していられるということを第一にしなければ、安定した生活は無いのではないかと思います。
- これから考えていきたいと思っています。
- ずっと同じ作業をする事業所と、いつも同じ作業とは限らない事業所。本人はどちらが好みなのか…、聞いてみると同じ作業をする事業所でした。ですが様々な作業をすることで色々覚えていけることもあり、将来の生活で役に立つのは、同じ作業とは限らない事業所のかな…と考えたりしています。
- 挨拶や分からない所を、どんどん話せばよいと思いました。
- 我が子の場合、何を取り組むのか見通しが立ちにくいので、“普段通りにしてくる”というのは難しい事でしたが、逆に“問題点(実際に利用した時の)もよく見えてくる”とも感じました。
- その環境や場所、人が安心できる所であると本人にどの様に伝えて行けばいいか、回数を重ね、経験を積み重ねる事につきると思いますが、実習ではない普段の生活から、継続的に進めていかなければと改めて思いました。

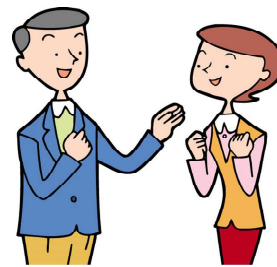


3 その他、今回の実習で気付かれたことや今後の実習についての要望、社会参加について思うこと、進路相談についてなど、自由に御意見をお聞かせください。

- 現場実習に行ったことで、本人の働こうという意志が強くなりました。本人に合った進路に進めるよう環境を整えていきたいと思っています。
- まだ本人がどんな仕事をしたいのか分かっていないので、これからどんどん実習を行って、自分に合った仕事を見つけてほしいです。
- 小学部、中学部と色々大変な事もありましたが、改めて小さな頃からの積み重ねは大事だと思いました。
- 初めての体験でしたが、半日同じ作業をすることができたようなので安心しました。体調を崩すことなく毎日元気に通うことができてよかったです。ありがとうございました
- 既に一般社会と隔てられていると感じます。親の力だけで社会参加をさせるのも難しいと思っています。子供を一般社会に合わせる教育だけでなく、支援学校全体としての社会の働きかけがあると助かります。



- 子供が働いているところを見学させていただくことができました。言語力が低く、子供から聞き出すことは難しいので、実際に見ることができてとても参考になりました。ありがとうございました。
- ある程度の理解ある職場でなければ毎日通えないと思います。生活していくには、毎日働くこと、継続することが必要です。働けたとしても本人への支援は必要だと思います(続けてほしい)。そういう事を考えてくれる企業はそんなに無いのだけど、だからこそ本人がいちばん頑張つて働いて行けるように、心の安定(気持ちよく働けること)を考えてもらえる現場が増えてほしいです。
- 秋の実習では、間を空けずに2週間連続でチャレンジしてもらいたいなと思いました。長期間1ヶ所に行かせてみて、様子も見てみたいので。今回の実習では、企業にもチャレンジしました。とても良い経験になったと思います。これが就労につながれば…とも思いますが、難しいのだろうなと感じています。
- 実習では送迎や引率と担当の先生方に沢山協力して頂きました。ありがとうございました。初めての場所で心配しましたが、事前の打ち合わせや先生の引率で安心して過ごせる事ができました。今回は“(お互いに)理解してもらおう”が一番でしたので“本人も良いイメージをもって帰ってくる事が出来たのでは…”と思います。
- 帰宅後の表情や様子が、とても良かったです。福祉サービスを将来的に利用するにあたり、サービス利用の開始時刻や送迎などが我が家の課題なのですが、まだまだ色々な制度が働く親に追いついていない(今は障害者の親とはいえ、就労している方がほとんどだと思いますし…)という事を感じています。親が行政に働きかけていかなければいけない部分なのだと思いますが、数年後に少しでも整ったり、変わっている事を願っています。



<進路教室について>

先日一次案内をした、次回の進路教室の予定です。後日、改めて御案内します。

10月の進路教室

内 容	進路セミナー／実習激励会 ～卒業生からお話を聞く～②
日時・会場	令和4年10月21日(金)午後 小出特別支援学校 体育館
概 要	高等部卒業生(就労移行支援→企業就労)とグループホーム支援者を招き、卒業後から現在に至るまでの仕事や生活の様子をお聞きします。また、翌週から行われる高等部の現場実習・校内実習に向けて、生徒が実習先や目標発表(決意表明)を行い、生徒がどんな現場にチャレンジするのも発表します。

今まで発行した進路だよりは当校のホームページに掲載しています。是非、御覧ください。
URL <http://www.koide-tk.nein.ed.jp/course.html>

新潟県立小出特別支援学校 進路指導部(細井哲明) TEL 025-792-5412
お問合せ等がございましたら、進路指導部まで御連絡ください。

